

故 濱田 毅 先生を悼んで



北大神経内科の創設期以来、長らくご活躍されてきた濱田毅先生が平成 22 年 5 月 13 日未明に他界されました。享年 64 才。その早過ぎる生涯が惜しまれてなりません。ここに深く哀悼の意を表すると共に、ご冥福をお祈り致します。

濱田 毅 先生は夕張市のご出身で、札幌医科大学を卒業の後、同校の脳神経外科学教室にて研鑽を積まれました。その後、紆余曲折を経て昭和 49 年 12 月より、都留美都雄教授が主催されていた北大脑神経外科学講座の教室員となり、田代邦雄講師(後の神経内科初代教授)を中心に診療活動を始めたばかりの神経内科診療班に参加されました。以来、神経内科一筋に研鑽され、脳神経外科助手を経て、昭和 57 年 11 月 1 日、札幌西区に北祐会神経内科病院を開設されました。当時は神経内科医が全国的にも少なく、北大にさえ神経内科が独立していない時期でした。神経内科を巡る環境は今とは異なり、神経内科単科で開業している民間病院も全国的には稀でした。神経内科単科で 120 床の病院を開院するには、どれ程の勇気と使命感があったことでしょうか。この開院は道内の患者家族にとり、どれだけ大きな支えとなったことか、計り知れないものがありました。さらに、この壮挙には全国の神経内科医が勇気づけられました。当時、新しい診療科である「神経内科」は、社会的知名度が低いために精神科や心療内科とよく混同されました。先生は病院の経営に腐心する傍ら、田代邦雄・現名誉教授を中心とする仲間と共に、一丸となって北大に神経内科を創設することに奔走されました。晴れて願いがかない神経内科が設立された時には、大変喜んでおられました。

以来、北大神経内科と北祐会神経内科病院は協力して発展してきました。しかし、その道のりは平坦ではありませんでした。先生は苦しい時であっても、人前では愚痴を言うことは稀であり、決して、あるべき医療の道を逸脱することはありませんでした。先生は教育に熱心でした。学びに来る若者、来客、共に働く仲間、そして仲間の家族をととも大切にして、歓迎していました。出身大学や所属施設の違いを区別することなく、北海道で働く神経疾患医療の関係者全体を、大切にされてきました。先生は神経学会など学会関係の人脈を大切にされました。それは後輩のために、少しでも北海道の神経内科を全国に知らしめたいとの強い使命感によるものでした。

先生が辛い時に何を心の支えとして乗り越えてきたのか、お聞きしたことがあります。その時のお話が、心に残っています。つらい時、辞めたいと思った時には、自分は何のために医師になったのか、何のために神経内科医になったのか、自分は何をするためにここにいるのか……いつも存在の意義、人生の意義、職責の本質といった、人の社会的存在の原点に立ち戻って、自問自答を繰り返してきたのだと。先生は仲間を大切にされましたが、人に頼ることはせずに、自らを頼みとされて、これまで歩いてこられました。この孤高の姿勢こそは、まさしく先駆者としての姿そのものでした。こうも言うておられました。つらくとも、正しいことをやっていれば、いつか理解してくれる人が現れると。医師は、正しい医療を行っている限り、患者が支えてくれると。そして、医療は患者のために在るのだと。別の機会に、医療に、特に神経内科にとって必要なものは何か、論議したことがあります。専門医としての技量のみを誇ることで足りるのか、自問していた時のことです。先生は診療しているだけでは神経難病は克服できないこと、克服するためには研究の大切さを強調されました。先生は北海道から、若者が研究に取り組み、いつか世界的成果を挙げることを夢見ておられました。実際、先生は良い提案があれば研究を支援してこられました。多くの研究者が先生に御支援を頂きました。

このような、先生の医師としての心意気は、北祐会神経内科病院の玄関脇にある定礎に反映されています。そこには、「……神経疾患の克服を目指す人々のために、この病院はある……」と銘記されています。先生はこれと同じ思いで、北大医学部に神経内科を創設することの大切さを認識され、設立後は初代同門会会長として、大学の外から創設まもない教室を支援し、同門の精神的な支えとして結束に尽力されてきました。それは一人でできることは限られている、仲間が集まれば大きなことができる、とのお気持ちからでした。そして、診療科の後継者を育てて、今は治せない病気も研究していつかは治したい、という気持で若者と北大神経内科には格別のご支援を続けられました。

先生の志は多くの仲間に受け継がれて、北海道の神経疾患医療を支えています。先生の御尽力には、あらためて感謝の意を深くするものです。でも、最も感謝しているのは、きっと、先生が診ておられた患者と家族の方々でしょう。

(この原稿は葬儀の弔辞を編集しました)

平成 22 年 6 月 14 日

佐々木秀直

北海道大学医学研究科神経内科学 教授